

動物の救急治療が対応可能な 移動診療車を走らせる



- 第1歩
酸素テント、酸素吸入を
受けながらの搬送
- 第2歩
24時間の持続点滴を
受けながらの搬送
- 第3歩
人工呼吸器による呼吸管理を
受けながらの搬送

ER動物救急センターと協力病院間の 診療連携はできたが 動物の輸送手段がない



国内の動物移動施設

ペットタクシーには酸素テントはない

移動動物病院

岩手大学動物病院移動診療車

マースジャパンより寄贈



1台に数千万円
マイクロバス改造車

マース ジャパン リミテッド社等からペット専用移動診療車「ワンにゃん号」寄贈

ペットフードの輸入・販売等を行っているマース ジャパン リミテッド社及びニュートロ ジャパン社から岩手大学に対して、災害時にも診療ができるペット専用移動診療車「ワンにゃん号」が寄贈され、平成24年3月22日に寄贈式典及び車両見学会が行われました。

これは、震災発生直後から被災地での動物診療活動を行った本学の取り組みについて、マース ジャパン社に賛同していただき、同社から移動診療車の寄付の申し出を受け実現したものです。

寄贈式典では、マース ジャパン社の森澤篤社長とニュートロ ジャパン社の保坂信仁社長から藤井克己岩手大学長に対して、ワンにゃん号のレプリカキーが贈呈されました。続いて行われた見学会では、動物のイラストが施された外観と、レントゲン装置、エコー（超音波診断）装

置、血液分析装置、麻酔装置などの最新医療機器が装備された車内が公開されました。車内では、動物診療のデモンストレーションが行われ、多くの人々の関心を集めました。

今後、本学農学部附属動物病院では、被災地の拠点動物病院等と連携しながら、ワンにゃん号を活用して動物相談会等を実施する予定です。



寄贈された
ワンにゃん号

レプリカキーの贈呈を行う（右から）ニュートロ ジャパン社・保坂信仁社長、マース ジャパン社・森澤篤社長、藤井克己岩手大学長



国内の動物移動施設

ペットタクシーには酸素テントはない

移動動物病院 TNR活動の移動否認去勢手術病院



にじのはしスペイクリニック

ハイエース改造車
トヨタ名古屋の
協力あり 800万円



しんけん動物病院



国内の動物移動施設

ペットタクシーには酸素テントはない

移動動物病院 TNR活動の移動否認去勢手術病院

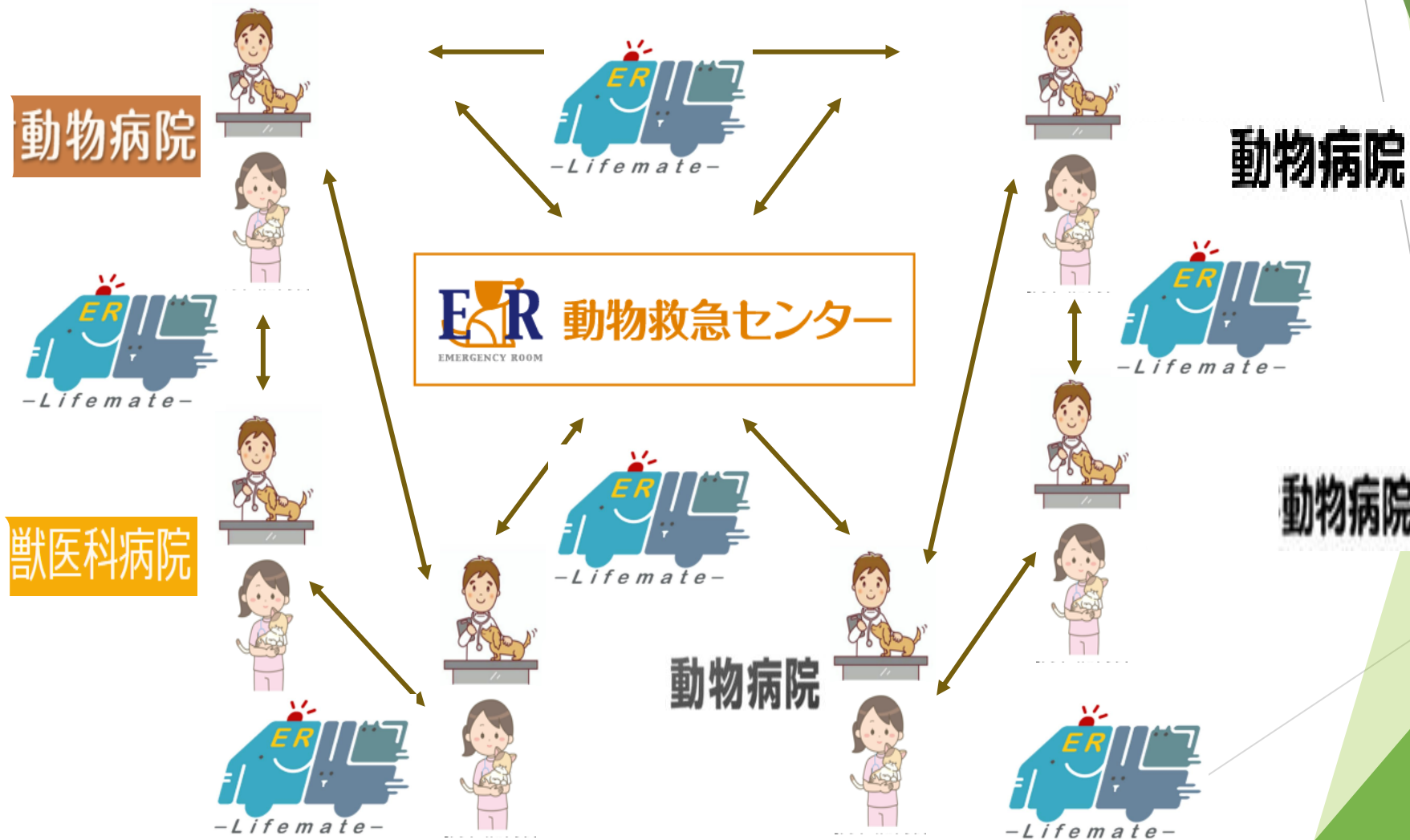
動物移動手術車における手術とは

獣医療法（獣医療法施行規則）に準拠した構造の手術車を制作し、麻酔器、生体情報モニター、器具滅菌機、冷蔵設備、手洗い設備を完備し、衛生的な環境を整え手術を実施します。車両は特殊用途車（8ナンバー）区分の獣医療法に基づく「医療防疫車」です。

※医療防疫車とは人のレントゲン車、心電図計測車、採血車と同じ区分になります。いわゆる「動物移動手術車」は当院が把握しているだけで全国で5台活躍しています。

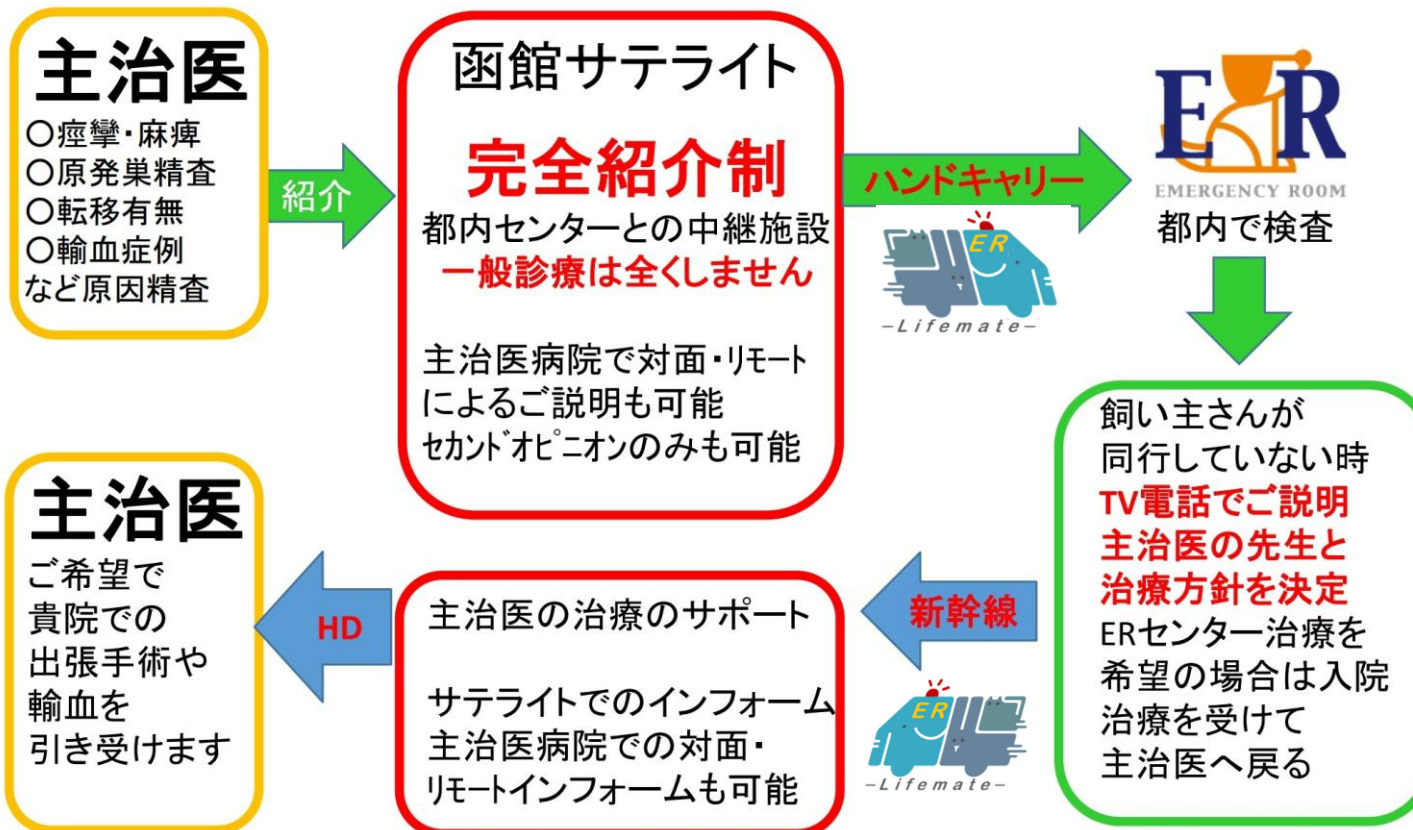
しんけん動物病院
移動動物手術車の説明より

ER動物救急センターと協力病院の架け橋 移動動物病院が命をつなぐ



ER動物救急センターと協力病院の架け橋 移動動物病院が命をつなぐ

高度獣医療センター・サテライト施設 なにができるのか



ER動物救急センターと 協力病院の架け橋 命をつなぐ

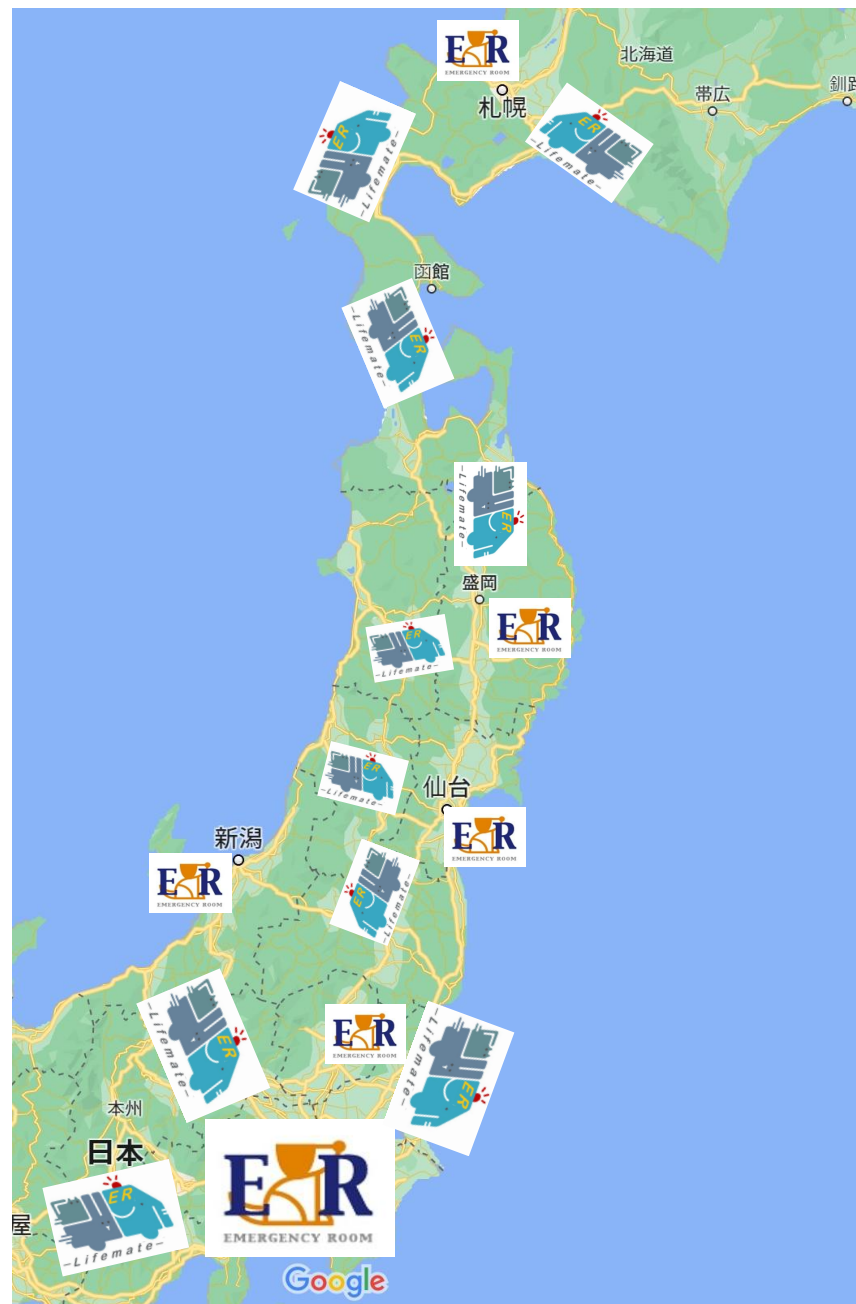
2時間遠方からの けいれん発作

2時間遠方からの 肺水腫

ERが近くにあれば

人工呼吸管理ができるだけで
助かる命が 日本中にある

ERを運営できるのは大都市
ならば 走らせよう



ER動物救急センターと協力病院の架け橋

移動動物病院が命をつなぐ

第一歩 酸素テント・酸素吸入

移動救急車 運転手1名

出発前に獣医師指示で酸素設定

動物看護師の同行が理想であるが

利用する飼い主の人件費負担が増加

小型犬・猫 酸素テント

中型犬以上

ケージ内が可能なら酸素テントが可能ではあるが湿度やCO2を考慮すると中型犬以上は鼻カテ設置
アトム6Frをバンド止めでいいが
主治医によっては処置経験なし

予約と費用 ネットで会計

1) 動物救急センター練馬・八王子に
主治医から診療予約

2) 移動救急車の送迎の必要性を確認

3) 利用料金

往復150km以内 3万円

往復150～300km 7万円

有料道路利用時は実費請求

4) 動物看護師同行時追加費用

往復150km以内 追加2万円

往復150～300km 追加4万円

ER動物救急センターと協力病院の架け橋 移動動物病院が命をつなぐ

第一歩 酸素テント・酸素吸入

酸素テント設置画像

鼻カテ設置画像



ER動物救急センターと協力病院の架け橋

移動動物病院が命をつなぐ

第二步 持続点滴を受けながら

移動救急車 運転手1名

同行動物看護師1名

獣医師のオンライン指示により
点滴投薬操作可能な経験者

強心剤は24時間持続点滴

移動中に切ることはできない薬
痙攣は移動中に酸素テント内でも
いつでもどこでも起きてしまう
すぐに抗痙攣薬を投薬する

第三步 人工呼吸管理で移動

当然の目標

主治医にて呼吸不全の管理に、痙攣
発作時の管理に人工呼吸管理
いつまで続ける どうやって移動する

作りましょう！

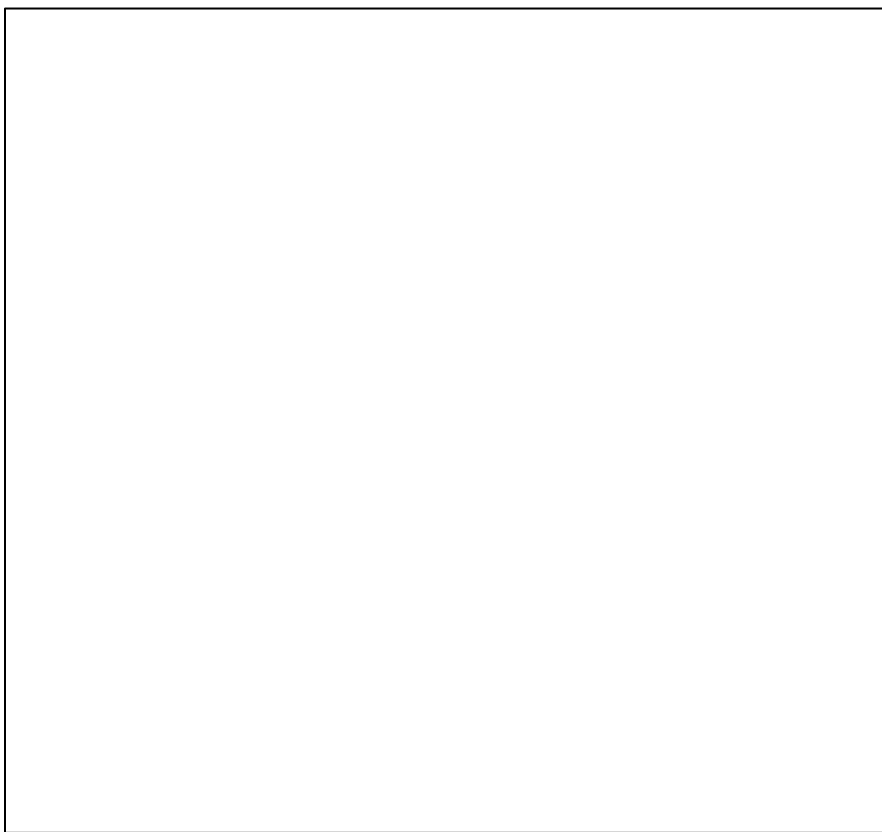
人工呼吸管理をおこないながら
移動できる救急車を犬猫のために！

獣医師同行が理想だが現実には
人工呼吸管理のベテラン看護師の同行

ER動物救急センターと協力病院の架け橋

移動動物病院が命をつなぐ

第二步 オンライン指示画像



第三步 人工呼吸管理画像

